



胆管結石の治療について

消化器内科 科長 北村 勝哉

胆石は石ができる部位により肝内結石、胆のう結石、胆管結石に分けられます(図1)。

今回は、胆管結石の治療についてお話しします。

胆管に石がつまると、おなかが痛くなり、熱がでることがあります。このような症状に関わらず、胆管に石が見つかった場合、石を取り除くことが望まれます。

胆管結石の治療は、以前は外科的手術が行われていましたが、現在は内視鏡を用いて石を取り除く治療が一般的に行われています。

患者さんには入院していただき、鎮静薬(眠くなる薬)や鎮痛薬(痛み止め)による点滴をして内視鏡治療を受けていただきます。

十二指腸用のカメラを口から入れて、胆管の出口の十二指腸乳頭部を電気メスで切ったり(図2)、風船のようなものでひろげる(図3)ことで石を出しやすい状態にします。次に、石を取り除く器具を胆管に入れて石を取り出します(図4)。

これらの内視鏡治療でほとんどの石を取り除くことができますが、胆管にはまりこんでしまった大きな石は取り出すことが難しいことがあります。この場合、胆道鏡という特殊なカメラを胆管に入れて、電気水圧の衝撃波で石を砕く(図5)ことで石を取り除くことができます。

当科はこれまで多くの胆管結石に対する内視鏡治療実績がありますので、お困りの方はぜひご相談ください。

図1

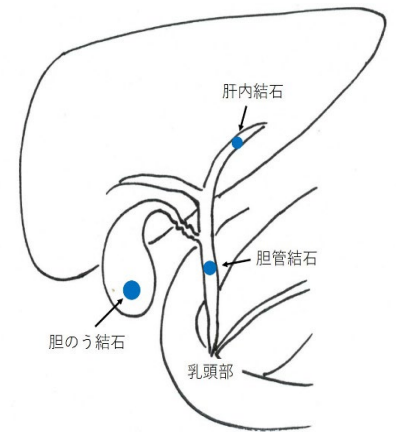


図2

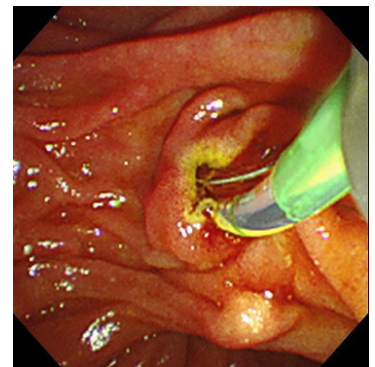


図3

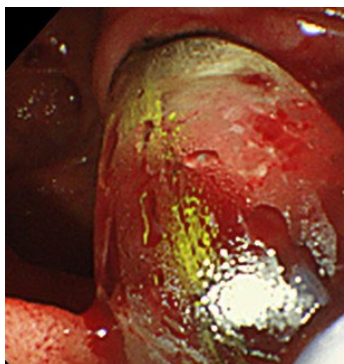


図4

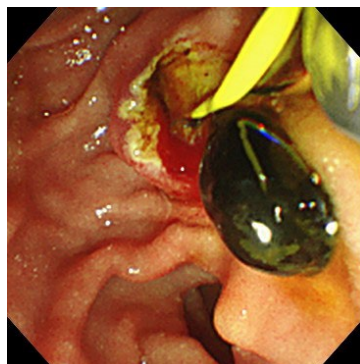


図5

